

令和 4 年度 県立水戸桜ノ牧高等学校常北校自己評価表

目指す 学校像	県立水戸桜ノ牧高等学校常北校として、校訓の「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身共に調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。				
昨年度の成果と課題		重点項目		重点目標	達成状況
【成果】 ○ 学習指導の面では、習熟度別少人数授業やチームティーチング等でのきめ細かい指導を通して、学習意欲及び理解度の向上が図れた。 ○ 生徒指導の面では、登下校時や昼休み等の校内外の巡視やスクールカウンセラーとの連携を通して、生徒指導上の問題を未然に防止し、生徒理解にも繋がった。全体として授業態度の向上が図られている。 ○ 進路指導の面では、進学希望者は100%、就職希望者は97%を達成した。 【課題】 ○ 教材の工夫及び ICT 機器を活用した指導方法の工夫改善を進め、学習意欲の高揚と基礎学力の定着及び向上を目指す。併せて、達成感が得られるよう学習環境の整備を進めていく。 ○ 入学時からの部活動参加を奨励し学校全体の活性化を図る。 ○ 自転車・バイクの乗り方や公共交通乗車マナーを指導する。 ○ 3年間を見通したキャリア教育を充実させ、早期から進路意識を涵養する。 ○ 教員の担う業務の明確化を図るとともに平準化を進め、勤務時間外の業務縮小・削減及び教員の意識改革を進める。	1	○ 確かな学力の定着と学習意欲の向上	① 創意工夫を凝らした教材研究や相互授業研修等を通じ質の高い授業の実践 ② ICT の積極的な活用により学習意欲の喚起を図り、計画的・継続的な学習の実践 ③ 少人数・習熟度別授業の有効活用により基礎学力の定着及び学習意欲の向上 ④ 英語宿泊研修や英検等を活用し国際理解教育とコミュニケーション能力の向上	A	
	2	○ 基本的な生活習慣の確立	⑤ 容姿指導や遅刻防止指導を徹底した基本的な生活習慣の確立 ⑥ 登下校時や授業の開始・終了時、校内外での挨拶の徹底 ⑦ 計画的な年3回の面談や家庭訪問、スクールカウンセラーとの連携等を通じた生徒理解の促進	A	
	3	○ 個別最適な進路実現	⑧ 3年間を見通した計画的なキャリア教育の実践 ⑨ キャンパス・職場見学、インターンシップ、各種講演会、キャリア・パスポート等による進路意識の高揚 ⑩ 基礎学力定着に向けた取組や各種資格取得の奨励を通じた個別最適な進路実現	A	
	4	○ 特別活動及び部活動の活性化と豊かな人間性の涵養	⑪ 学校行事や生徒会活動、ホームルーム活動を通じた積極性の伸長 また、キャリア・パスポートを活用した自己変容や成長への気付きの促進 ⑫ 部活動への積極的な参加を促進し、望ましい人間関係の構築と学校生活の充実 ⑬ 自他生命を尊重し多様性を受容できる心の育成と豊かな人間性の涵養	A	
	5	○ 地域から信頼される学校づくりの推進	⑭ ホームページや地域広報誌、学校新聞等の PR 手段を活用した、保護者・地域への積極的な情報提供の推進 ⑮ 学校評議員や近隣中学校等の意見を取り入れた、地域と連携した教育活動の展開 ⑯ 学校公開の計画的な実施による地域からの理解促進 ⑰ 分校の特長を活かした、シティズンシップ教育の推進と地域連携の促進	A	
	6	○ 教職員の業務見直し及び意識改革の推進	⑱ 教職員が担う業務の明確化・効率化を目指すとともに、校務分掌の在り方や行事の精選・内容の見直しを図り、業務の平準化と長時間勤務の改善 ⑲ 従前からの業務の見直しと精選による事務作業等の負担軽減や、勤務時間を意識した生活の質（QOL）の向上など、教員としての新たな働き方改革の実践	B	

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標					
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)		「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	① 至誠を貫き、勤勉かつ規範意識が高く、社会変化に柔軟に対応でき、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、社会的自立ができる人財育成 ② 生活をとおしてよりよい人間関係を形成し、課題解決に向け主体的にチャレンジできる人財育成 ③ 地域社会や産業界等と協力し合い、生涯にわたって郷土を愛し、自ら学び続けることのできる人財育成				
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	① 時代や地域の求める人財育成のため、個別最適な進路選択と学力向上の推進 ② 授業や学校行事をとおした心の教育を推進し、モラル・マナーを身に付けた道德心の確立 ③ 生徒一人一人の確実な進路実現を目指し、キャリア教育と進路指導の充実				
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 心身共に調和のとれた成長と文武両道を目指し、仲間を大切に思いやることのできる生徒 ② 自分の可能性と進路実現を広く追求して、進路実現に向け努力のできる生徒 ③ 地域社会や学校の規範を守って生活することができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組む意欲の高い生徒				
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		確かな学力の向上と学習意欲の向上	創意工夫を凝らした教材研究や少人数編成授業、シラバスの活用、良さを引き出す適切な学習評価、わかりやすい授業の研究、ICT 機器を活用した授業等によって、学力を高めるとともに学習意欲を向上させる。 ①②③④⑪		A	A	・授業において効果的に生徒端末を有効活用していく。
	国語	基礎的な国語力の習得	基礎的な漢字・語彙等の反復練習により基礎学力を身に付け、自分のものとして応用できる国語力を育成する。 ①②③		A	A	・基礎的な語彙能力が年々低下しているので、授業内外で「ことば」を使用する能力を育成する機会を設けていきたい。
		読書習慣の習得	「朝の読書」の時間と連携し、読書する楽しみを身に付け、感性を豊かにし、様々なものの見方感じ方を知り、豊かな人生を歩める基礎を育成する。 ①②		A		
		作文の基礎的な表記の習得	基礎的な文章を表現する知識を学び、自分の考えや意見を適切に表現できる力を育成する。 ①②③		B		
	地歴・公民	基礎学力の向上	小・中学校の既習内容を、小テストを用いて復習し、知識の定着を図る。さらに、主体的・対話的な学習活動を取り入れ、生徒が主体的に学ぶだけでなく、習得した知識を活用することのできる授業展開の工夫をする。 ①②③		A	A	・ICT 活用に伴う生徒の興味・関心は向上したが、探究学習の結果を社会全体に反映する機会が少ないため、外部との連携をさらに深めていきたい。
		社会参画意識の形成	授業内容と社会との関わりを生徒に考えさせることによって社会参画の意識を養う。ICT を活用し、生徒が自ら意欲的に学ぶための授業を展開し、社会への興味・関心を高めることができるようにする。 ①②③		B		

別紙様式 2 (高)

教科	数学	基礎学力の定着	授業や朝トレで基本的な演習を繰り返し行うことにより基礎計算力の向上と定着を図る。 ③	A	A	・定期考査での基礎計算はできるが、その後の定着度は低い。朝トレ等で繰り返し復習の機会を与え、定着度を高める。
		問題解決力の向上	数学の解法を学習する過程において、問題を解決するための論理的思考を体験させ、問題解決力の向上を図るとともに応用力を身に付ける。 ①②	B		
	理科	自然科学に対する興味・関心の向上	ICT を活用した映像の提示を行い自然科学に関する情報を数多く紹介する。また、実験・観察の工夫を行い、自然科学に対する興味・関心の向上を図る。 ①②	B	B	・観察・実験の工夫をさらに行う必要がある。
		基礎学力の充実	プリントやワークブック等を活用し、基礎学力の充実を図る。 ①②	B		
	保健体育	健康の保持増進と危険回避能力育成	健康や安全に関する課題に直面したときに、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践できるような資質や能力を養う。 ①②	A	A	・新体力テストの結果を踏まえ、自ら運動処方を考え、実践できるための指導の工夫を図る。
		体力の向上	自己の体力や身体能力を知り、考えながら補強運動を実践することができるようにする。 ①	B		
		応急手当と心肺蘇生法の習得	初期的な応急処置 RICE 等の様々な知識と技法を身に付ける。心肺蘇生法の実習を行い、自ら進んで応急手当が実行できる技能を養う。(AED 救命講習を含む) ①②③	A		
	芸術	音楽を愛好する心情の育成	音楽に取り組むために必要な読譜力を向上させ、より積極的に音楽に親しみ、取り組む態度や姿勢を育成する。 ①③	A	A	・個に応じた指導で、音楽の基礎的な能力の定着を図り、1人1人がより深く音楽活動に関わる姿勢を育成する。
			豊富な題材の研究から、本校生徒の実情に即した題材に取り組ませる。 ②③	A		
		感性の向上、創造的な表現と鑑賞の能力の伸長	様々な楽器の奏法や作曲法・発声法を学んだり、音色や楽曲の美しさを感じ取らせることで、感性を豊かにし、創造的な表現能力を伸ばす。 ①③	A		
			楽曲から作曲者の人生や作品の時代的背景を学び、総合的に鑑賞を行い、創造的な鑑賞能力を伸ばす。 ①③	A		
	英語	コミュニケーション能力の育成	4技能5領域を総合的・有機的に関連させた指導を実践して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、その能力の向上を目指す。 ①②③④	A	A	・ICT を利用することで、言語活動が活発になった。基礎学力定着のために、教材や課題を工夫して作成し、単語
		基本的な語彙及び文法事項の定着	基本的な語彙及び文法事項の指導を継続的に行い、英語による言語活動の基礎づくりを進める。 ①②③④	A		

別紙様式 2 (高)

		指導計画の工夫改善	英語を使ったわかりやすい授業を実践するために指導計画の工夫と改善に努める。 ①②③④	A		テストやパフォーマンステストの実施数を増やす。
	家庭	基礎的・基本的な知識及び技術の習得専門科目を通しての知識・技術の向上	日常生活に必要な基本的な知識を習得するとともに、実験・実習を通し、基礎的・基本的技術を習得する。 ①②	A	A	・基礎的・基本的技術の反復練習を徹底し、応用的技術への移行をスムーズに進められるようにする。
			日常着の製作を通して『家庭総合』で習得した基礎的・基本的技術を定着させ、更に応用的知識・技術の習得を目指す。 ①②③	B		
	情報	情報を活用する実践力の育成	Word、Excel、PowerPoint、プログラミングといった一般的な事務処理ソフトウェアの基本的な知識・技能を習得し、マルチメディア・インターネット・ネットワークを活用できる実践力を育成する。 ①	B	B	・共通テストに選択される事より、リテラシーより情報Ⅰ全般に関わる内容に変更したため、当初の計画通りに行かなかった。
		情報社会における望ましい態度の育成	著作権や情報モラル等の情報倫理を身に付け、コンピュータやインターネットを利用する際のマナーを高める指導を展開する。 ①②⑩	B		
	総合的な探究の時間	進路意識の高揚とコミュニケーション能力及び規範意識の育成	3年間を見据えた進路ガイダンスやコミュニケーション演習等を進路実現に向けて計画的に実施する。その中で、生徒が自分で課題をもち、さらに深めていこうとする主体性の育成を目指し、自分の進路を自ら選択・決定する力を育成する。 ①⑧⑨⑰	A	A	・新2年生はインターシップや卒業後の進路に向けた意識の高揚、新3年生は面接試験対策や志望動機の作成など学年に応じた発展ができるよう支援する。
教 務 (含渉外)	道徳	マナーの修得と自他を大切にする心の育成	自他の生命や人権を尊重し、思いやりの精神・他者を理解する心を持たせるとともにマナーの必要性を自覚させる。さらに、外部講師の講話等を通して、将来、社会の一員として自覚ある行動ができるよう、公共心を育み、自己実現に向けて努力する心を養う。 ⑬	B	B	・人間関係でのトラブルがまだあるので、良好な人間関係を築くために、他者を気遣う心の育成を継続して進める必要がある。
		授業時間の確保	授業実施時間数の確保に常に留意するとともに、特編時間割の運用を工夫する。 ①③	A	A	・各部、各学年との連携をさらに高め、より円滑な運営を行えるようにする。 ・観点別評価において、定期
		観点別評価の更なる推進	観点別学習状況評価の実施を、学校や生徒の特性に応じて工夫しながら推進する。 ①③④	B		

別紙様式 2 (高)

	公開授業の実施	計画的な公開授業を行って、地域への情報発信及び教員研修の機会を増やす。 ①⑭⑮⑯⑰	A		的に職員研修を行い、各教科の評価法や評価規準に生かせるようにする。 ・公開授業以外にも、校外に向けた情報発信・広報活動の拡充に努める。 ・ICT環境の整備において、Wi-Fi アクセスポイントの増設を行い、より一層 ICT 環境の充実に努める。
	ICT 環境の整備	タブレット端末、電子黒板等の ICT 機器の管理・整備を行うとともに、ICT を活用した学習環境の充実に努める。 ②	A		
	学年や各部との連携	教育活動の円滑な運営のために、学年・部・教科との連携に絶えず努める。 ①⑪⑱⑲	A		
	充実した PR 活動の継続	地域広報誌や校内新聞、ホームページ等を利用して、学校に関する情報の効果的な発信を継続する。 ⑭⑮⑯⑰	A		
	水戸桜ノ牧本校との連携	水戸桜ノ牧本校との日程調整等を確実にし、齟齬のない学校運営に配慮する。 ⑭⑮⑯⑰	A		
	効率的な PTA 組織とその運営	保護者と教職員の連絡を密にし、より効率的な PTA の組織づくりと運営を目指す。 ⑭⑮⑯⑰	A		
生徒指導 (含特別活動)	基本的生活習慣の育成	早朝校内外立哨指導や校内巡視及び生徒による挨拶運動等により挨拶の励行を図る。 ⑤⑥⑮	A	A	・全教職員が共通理解、共通行動を基本として日々の生徒指導を実践していく体制の徹底を図る。 ・生徒指導部を中心に、学校全体の指導体制・方針を構築する。
		HR・生徒面談・集会を通し、時間や規則を守ることなどの規範意識を高揚させる。(遅刻・欠席の防止) ⑤⑥⑦	A		
		容姿指導の徹底と校内外諸規則の遵守(喫煙等生徒指導事故の防止) ⑤⑥⑦	A		
	交通安全教育の推進	自転車・バイク安全点検と安全運転の徹底。交通安全講話の実施と公共マナーの指導。 校外立哨指導の充実。 ⑥⑮	A		
	部活動の充実	部活動加入率の増加を図る。 ⑫	B		
	学校行事の円滑な運営	ツールド常北・クラスマッチ・文化祭など行事の円滑な運営と充実に努める。 ⑥⑪⑰⑱	A		
	キャリア・パスポートの活用	各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑪⑰	B		
	進路意識の喚起	進路講演会・進路ガイダンス・キャリア・パスポート等を通して、自分の将来について	A		・進路決定の一助となるよ

別紙様式 2 (高)

進路指導		て自ら選択し準備する力を育成する。 ⑧⑱		A	う、キャリア・パスポートの活用や各種検定試験への積極的参加を促す。 ・朝のトレーニングタイムへの取り組みを強化し、基礎学力のさらなる向上を目指す。
	基礎学力の向上	各種検定試験、就職・進学試験の合格を目指し、朝のトレーニングタイムや個に応じた指導を充実させて基礎的な力を習得させる。 ⑧⑱	B		
	面接指導の徹底	進路決定に向けて面接のマナーや自己表現の仕方を習得させる。 ⑧	A		
	インターンシップの充実	2年時において職業体験をすることにより、職業観や勤労観、更には進路を主体的に選択する能力を育成する。 ⑨	A		
保健厚生	保健管理・保健指導の充実	毎日の健康観察や健康診断の結果及び各種行事前の問診等を通じて自身の健康について振り返り、健康を管理できる力を養う。 ⑤⑬	A	A	・ゴミ分別（特にペットボトル・缶）が煩雑になってきているため、SDGsの視点を含めたゴミ分別について意識付け、行動変容を促す。 ・見通しが持てず、ケガにつながるケースが多かった。生徒が自分事と捉え、予測を立てられるような保健指導を実施する。
		日頃から担任・学年等と連携し、スクールカウンセラーを活用した「こころの健康」の管理に努める。 ⑦⑬	A		
	健康で安全な学校環境の整備・美化	ゴミの分別等について啓発活動を行い、意識の高揚を図るとともに、環境美化に努める。 ⑪⑬	B		
		日頃から施設設備の安全を確保するとともに、救急処置等の保健指導の中で生徒の危機管理能力を養う。 ⑬	B		
	地域と連携した防災教育の推進	地域と連携した防災講話・避難訓練を実施し、震災などの非常時に適切な行動がとれるようにする。 ⑪⑬⑭⑮⑰⑱	A		
第3学年	基本的生活習慣の確立	遅刻カードの利用により、効果を上げてきた遅刻指導を継続し、時間厳守の徹底を図る。複数回の担任面談を行うことやスクールカウンセラーとの連携を密にすることで生徒理解に努めながら、社会生活に通用する生活習慣を確立させる。 ⑤⑥⑦	B	A	・年間を通じて特定の生徒の遅刻が目立った。声かけをして、生徒の変化に早めに気づくことで、原因を究明し、基本的生活が確立できるように学校全体で取り組んでいく。
	進路実現に向けた取り組みの充実	LHRや総合を活用し、外部講師と連携・協働した進路ガイダンスや面接指導等を積極的に取り入れて、希望の進路実現に向けた取り組みを充実させる。 少人数授業や課外及び朝のトレーニングタイムを有効に活用して、各自の進路に対応できる応用力を身に付けさせ、キャリア・パスポートも活用しながら全員の進路決定を目指す。 ③⑦⑧⑨⑩⑰	A		
	リーダーシップの育成	最上級生であることを自覚させ、毎日の学校生活や学校行事及び部活動を通じて、社会生活で生きるリーダーシップを育成させる。 ⑪⑬	A		

別紙様式 2 (高)

第 2 学年	基本的生活習慣の確立	早朝の登校指導や朝の SHR を通し、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促すよう指導を徹底する。遅刻カードの利用により、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせるとともに、事前連絡を徹底させる。家庭や生徒指導部と連携しながら、指導の徹底を図る。⑤⑥⑦	B	A	・一部の生徒に遅刻が目立った。挨拶の励行では、できない生徒が数多くいる。時間厳守や挨拶の励行の徹底を図っていく必要がある。 ・「朝のトレーニングタイム」を活用し、基礎学力の向上をさらに図っていく必要がある。
	基礎学力の向上	授業および「朝のトレーニングタイム」に意欲的、継続的に取り組むような学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。教科担当者と連携し、指導の徹底を図る。⑩	B		
	進路意識の喚起	担任による面談等で個別対応を適切に行い、本人と保護者間での進路に対する相互理解を深められるよう促す。進路ガイダンスやコミュニケーション演習を通して生徒の進路意識を高め、インターンシップにより将来の目標の明確化を図る。⑧⑨	A		
	豊かな心の育成	修学旅行及びその事前学習を通して生徒の平和への思いを醸成し、自然の豊かさに触れさせることにより、豊かな心を育成する。ビジネスマナー演習・コミュニケーション演習等を通して、他人に対する思いやりの心や礼儀の大切さを学ばせる。LHR の時間や部活動、学校行事等を通し、友情を育て自他を大切にすることを育む。⑪⑫⑬⑰⑱	A		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立	昇降口指導や HR 等で、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促すよう指導を徹底する。遅刻カードや学年での遅刻指導を徹底し、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせるとともに、体調管理や事前準備の重要性を認識させる。⑤⑥⑦	B	B	・元気な挨拶ができる生徒も多い一方で、きちんとできない生徒も少なくないので、継続して指導する必要がある。 ・朝の読書で取り組みが不十分な生徒もいるので、机間指導をして改善に努めたい。 ・多くの生徒が安定した学校生活を送ることができたので、卒業後に向けた進路意識の高揚が次の課題である。
	基礎学力の向上	「朝のトレーニングタイム」や「朝の読書」に意欲的に取り組むことにより、基礎学力の定着・集中力の向上を目指す。授業中に教室巡視を行い、授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。②③	B		
	進路意識の喚起	進路ガイダンスやキャリアパスポートを活用して進路指導を充実させるとともに、担任による面談等で個別対応を適切に行い、生徒の進路意識の向上を図る。⑧⑨⑪⑬⑰	A		
	豊かな心の育成	LHR や道徳の時間を通して、友情や自他を大切にすることを育むとともに、ソーシャルマナー演習・異文化体験・コミュニケーション演習等を通して、他人に対する思いやりの心や礼儀の大切さを学ばせる。⑥⑪⑬	A		

※評価規準： A＝大変良く達成できた。 B＝よく達成できた。 C＝普通である。 D＝やや不十分である。 E＝不十分である。